

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「利用者が楽しく、安楽に暮らしていける」様に、近隣の方達との和を大切にする為にスタッフが間に入りその実現を目指している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		利用者が自由に自分のペースを保てる様、その人らしい生活リズムを整え、家庭的な雰囲気と共に作り出していくよう心掛けている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		行事や家族会、普段の面会時に、交流が図れる様スタッフ一同働きかけをしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		行事や外出時における外部の方との出会いを大切にしている。 自然に話の輪に入れる様に常に気軽に声を掛けをしており、利用者を交えながら施設内での出来事などを話して行くようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		市内のイベント、老人会への参加を図り、近隣の方々へは施設行事にもご参加頂けるようにお誘いをしている。 また、実際にご参加頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩を利用しクリーン作戦と題し、散歩等で施設から外出したなら一つでもゴミを拾おうよ！を掛け声に利用者と共にチャレンジしている。		毎日の作業としてでなく、散歩である程度範囲を決め1m～3mを目指す様に施している。声掛けを要す。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護の方向性や指針についての共通理解は、理解されていると思う。外部評価による情報、指摘を受けた分野での反省点など、見直し改善してきている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設繁栄に向けてと同時に、利用者への安心出来る生活、健康管理、衣食住に於いての情報交換等から、業務カンファレンス等にて問題解決へとしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報提供書の提出を行なうと共に、不明点、相談がある場合には連絡をとりお伺いするようにしている。自治体の活動にも参加出来るように調整を行なっている。		今迄以上に地域行事への参加を多くしていく。災害対策など。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に制度を用いている方があり、日々、権利擁護や生活保護法などについて、主題として理解を強め対応してきている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して、言葉一つでも虐待に当たる事が有り「利用者は我々の人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持って接しなければいけない。」と日々、申し送りで伝達している。		各委員会を設け決して無理強いする事なく、職員全体にもゆとりのあるケアを目指していく。現在月1回～2回であるが、業務カンファレンス(虐待防止委員会を設けている)を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関しては、ご家族様から施設に対する要望書の記入に基づいて、契約時に契約書と重要事項説明書を通して説明を行い同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的な家族会他、随時意向に応じた話し合いの場が持てるよう努力している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、ご家族へお便りを請求書などと共に送付し、近況報告をしている。随時、面会時などでも普段の生活の様子をお知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を設け、出来るだけ参加する負担にならないよう行事の日に取り入れている。又、常時ご家族様からの相談、雑談等交えながら情報を取り入れ、生活の場へと参考にさせて頂いている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、申し送りなどや日常の中での報告、連絡、相談などの場面に於いても意見を言える雰囲気作りをしている。得意分野も引き出せる様に、問題が発生した場合にもすぐ対応出来るようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の方の動きや状況に応じた勤務体制が組み立てられており、場面に依りて臨機応変に体制が変わる事もある。</p>	<p>毎日のリズムある生活の中で利用者状況により体調・精神的变化に合わせた対応。気の許せる職員を同行させる支援により感情穏やかに過ごせる様にかかわっている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ケア上の悩みなどは、その都度職員同士でカバーをしている為、働きやすい職場と理解している。家庭事情にて退職された元職員は、現在も行事等においてボランティアとして参加協力を頂いている。</p>	<p>職員の定着という意味で本来の持ち味を生かし、利用者様への提供が出来、時には一緒に遊べる。楽しめる。といった行事を心掛け、仲間とのコミュニケーションづくりに取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の他のグループホームにて研修する機会が有り、それを通じ、改めて当ホームの業務改善につなげられる様努力が図られている。</p>	<p>職員も自身の研鑽のために意欲的である。また、研修受講もあり参加者が施設内伝達講習をする事で業務に改善取り組みをする。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人が属するグループ全体の勉強会が定期的に行われていて、スタッフが交替で参加し業務の改善につなげている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>無理のない勤務体制を確保したり、場合によってはスタッフとの個人面接を行い、不安等の解消に努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>本部スタッフが定期的にホームを回り、状況等を確認しアドバイス等を適格に行なっている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に行なう実態調査においては本人からの要望等をヒアリングしている。また、入居後においては普段の声掛けを積極的にを行い信頼関係を築く事により希望を汲める様努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に行なう実態調査時においては家族からの要望等をヒアリングしている。また、入居時には家族からの要望書を提出頂いており、可能な限り対応している。更に入居後においては、面会時等に御家族が職員へ気軽に話せる様な雰囲気作りを心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の気持ち、意向、ご家族様からの要望書などを頂く様にしている。内容によって施設で「出来るもの、出来ないもの」で対処している。		何でも相談出来る関係にある。その中でも状況内容を判断しながら、他のサービスへの紹介が必要なのか見極めが出来る様にしていく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	フロアでお茶を飲む機会を増やし、声掛け他、利用者との談話に努め仲間であるということを知って頂く。なじみのもの、趣味を生かした形で取り組みをしていく。		できるだけ本人の趣味や意向を伺いながら、安定された生活空間を生み出される様な話し合いの場を多くしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事出来ない事ある中で、テレビ観賞、カラオケ、食事作り、食器洗いと、必ず利用者が出来る事やして頂く。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにスタッフは気軽に声を掛け、本人の様子を絶えず伝え、又、時には家族からの要望を聞き一緒に利用者の事を考えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時よりずっと、家族とは利用者のより良いケアの為に話し合い、相談を行なっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた馴染みのある地域周辺の散歩や、老人会行事への参加など、家族への協力も得られている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が交流を持てる様に、フロアー(食堂)がその場になっている。スタッフがその環境、関係作りに努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設退去後も、知り得た仲間として受け止め、行事を通じての交流が保たれている。手紙等でお知らせを定期的に行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の意向は、食事や趣味など様々であり、先ずスタッフはその意向をしっかりと把握出来る様に全力をあげている。出来ない時は、スタッフ間でケアカンファレンス等話し合いを持っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの聞き取りを通じて、又、家族から、更に利用していたサービス事業所などより情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の毎日毎日の生活の中で、スタッフが気軽に声掛けし、現状や状況を把握出来る様に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を第一に、ケアプラン作成担当者を中心にスタッフ皆で、ケアカンファレンスや話し合いによって作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「利用者の状況は日々変わる。」との認識を持って、スタッフが利用者を日々観察し接する事によって、状況を把握した上でケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の状況を把握しながら、スタッフ間の申し送りや伝達を徹底し、ケアプラン作成を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの運営方針等、スタッフ間でいつも確認しながら、又、利用者第一にケアを行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などで、民生委員やボランティアとの交流がある。特に民生委員とは園芸で、ボランティアとは随時交流がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは随時連絡を取り合っていて、利用者の情報提供などを行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進委員会などを通じ、随時連絡を取り合っている。		長期的なケアマネジメントなどについて、地域包括支援センターと協力してもっと話を進めていきたいと思っている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは、近隣の往診医に毎週来てもらっている。利用者に何かあれば、随時連絡相談し適切な処置を受けられているので、利用者と家族は安心感をもっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	前項の医師と随時連携を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護職員が随時、他のスタッフと申し送りや相談し提携医院での連携を図りながら健康管理支援に向けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当施設と提携のある病院では、相談員と随時情報交換や連絡相談を行なっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者によっては入居時に、又、入居後状態によっては利用者本人や家族医師らと話し合い、今後のよりよい方向性に向けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に対しては、スタッフ一丸でケアカンファレンスを続け、かかりつけ医と共によりよいケアに取り組んでいる。		入院者についても医療機関に任せきりにならず、定期的に訪問しドクターやナース等と情報交換を行なう一方、利用者への清拭や四肢マッサージ等を行っている。今後は更なる連携を取り、チームケアの充実を図っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去時には、家族と話し合いをし利用者の気持ちを大切に考え、より良い方向性を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者は人生の先輩である。」という認識のもとに、スタッフは利用者のケアにあたっている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフが決めるのではなく、利用者の希望や意向に従ってスタッフが援助出来る体制を進めている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが決めるのではなく、利用者の希望や意向に従ってスタッフが援助出来る体制を進めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望で、スタッフが衣類の買物や美容院等に付き添っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に従って、食事のメニューを決めたり、食事を作ったり、片付け等を、スタッフと一緒に進めている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現利用者には、お酒、タバコを嗜む方はいないが、場所等は決めてある。気楽に楽しめる様に支援する。	お祝い時(お正月)には、お酒を少々だが飲める場も設定してあり喜ばれている。今後も色々な形で工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者本人の意向を第一に、尿意が有り立位可能であればパンツ使用を支援している。 利用者が体調不良だった場合や夜間帯などでは、状況に応じてオムツを使用する事も有る。		全介助の方も日中排泄は、トイレ利用しさっぱりとして頂いている。カブレを作らない、不快感にさせないように支援をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先し、基本的に2日に一回入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、出来るだけ活動して頂き、又、入浴や足浴を通じ、夜間安眠して頂ける様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりによって楽しみが違うが、レクリエーションや散歩、買物等、スタッフが一緒に行なっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し家族とも相談し、おこづかいの金額を決めさせて頂いている。又、買物等では本人が支払いをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候も有るが、散歩や買物は日々の日課として位置づけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者本人の意向に従い、車でスタッフが同行して出掛けたり、又、家族にお願いする事も有る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には本人の意向に従って支援しているが、家族の希望により制限している場合も有る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者が会いたい人は、利用者と同様にスタッフ一同大歓迎している。家族はもちろんの事、利用者の友人等、いつでも来苑して頂ける様に声掛けしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、そのケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関隣り出入り口にはドアチャイムを取り付け、人の出入りを察知出来る様にしている。当日止むを得ない時には鍵を掛けているが、外来者に貼り紙等でお知らせをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「利用者の命を預かっている。」との認識で、スタッフ一同注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ等、スタッフが必ず利用者との間に入って、使用前確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	普段より申し送りを始め、ケアカンファレンス、業務ケアカンファレンス等、事故防止に取り組んでいる。		スタッフ一人ひとりが、もっと自覚を持って出来る様に、更に訓練を積んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災、避難訓練を毎月行なって、スタッフが熟知し定着出来る様にしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スタッフが災害時、利用者を避難誘導出来る様に訓練を毎月行い、又、近隣にも協力を呼び掛けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとり、個人個人によって持病等有る場合、あらかじめ家族やスタッフ、医師らと話し合いを持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態については、毎日スタッフが様子を観察し、申し送り、伝達を確実にこなしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが利用者の服薬を確実に出来る様に、申し送り、ケアカンファレンス等を徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対しては、決して下剤に頼る事なく日々散歩にお誘いして体を動かしている。又、牛乳などを勤めて予防や解消に勤めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態により、声掛け、見守りをしたり、介助したり、様子観察を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量は毎食後必ずチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	主治医の指導の元、又、スタッフ間での申し送りを始め、ケアカンファレンス、業務カンファレンスを通じ対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外部発注して保管には十分注意し、作ってから2時間経過したものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境整備として、草むしり等行なったり、花を飾ったり、特に利用者に喜んでもらえる様にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって、場所が分かる様に掲示している。又、季節感が分かる様に飾りも工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は内側から施錠出来、プライバシー保護を保っている。利用者の意向が第一になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等持ちこみ自由で、入居時に使い慣れた物と話をしている。タンス、仏壇、茶器、お箸等持参され、四季を通じて衣類の交換がある。利用者様には安心して過ごせる場となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は自然の風や音を感じられる様に支障のない範囲で、各居室の窓やドアを開け換気を怠っていない。また外気温の変化に留意している。		消臭、異臭となるものに気配りをしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっている。身体状況、健康管理のもとに見守り、さりげなく側に立ち声掛け等で注意を払っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの好きな事、楽しいと思う事を把握しそれぞれに支援している。(食器洗い、縫物、洗濯たたみ、歌、モップ掛け、草取りなど)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前を利用しテーブル、縁台を置き、お茶会、お花の寄せ植などしてくつろぎの場となっている。又、散歩などで気になると利用者は、極自然に草取りを始めたりする雰囲気となる。		利用者同士の団欒の場、馴染みの場に多用途のアレンジをして今後も続行していく。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

トイレでの自立排泄に向ける為、排泄パターンの把握と共に、座位の保持が出来る様に筋力強化の為の体操などを工夫している。また、天候や利用者の体調にも左右されるが、車椅子利用の方も一緒に楽しめる様工夫をしながら、畑での野菜の収穫をする事により、ご自分に出来る事をして頂きつつ日々の満足度を得て頂く。

家族会を定期的に行っており、家族間の交流も情報交換に役立っている。